

中南地域農業生産情報 7月号

1 6月の気象 (弘前アメダス)

(1) 気温

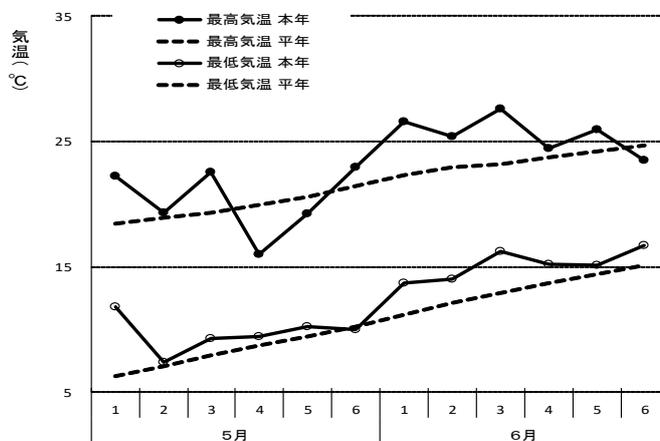
気温は、前半が高く、後半は平年並みで推移した。平均気温は平年に比べ2℃高かった。

(2) 日照時間

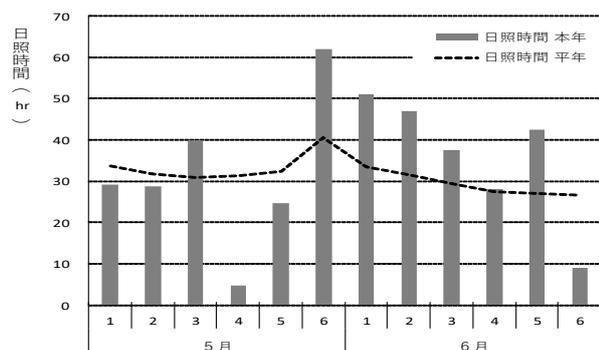
第6半旬を除き平年を上回る日が多く、平年比123%と多かった。

(3) 降水量

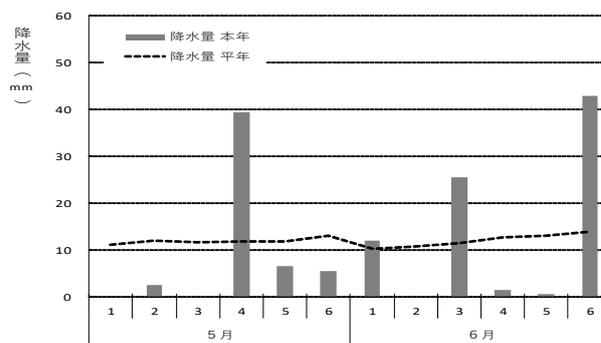
周期的にまとまった雨が降り、平年比119%とやや多かった。



最高・最低気温



日照時間



降水量

2 水 稲

(1) 生育状況 (6月30日現在)

各品種とも、草丈はやや長く、茎数はかなり多く、葉数は「つがるロマン」はやや多め、「青天の霹靂」と「まっしぐら」は平年並みである。

(2) これからの農作業と管理

① 水管理

中干しは、1株20本程度の茎数を確保した水田では好天を選んで田面に軽くひび割れが入る程度行い、生育遅れの水田や低温が続く場合には行わない。

低温に弱い幼穂形成期前に必ず終了し、また、低温が続くことが予想される場合は直ちに中止し、入水する。

水はけの悪い水田で中干しを行う場合は、効果を高めるため5m程度の間隔で溝切りを行う。

② 病虫害防除

ア 斑点米カメムシ類

発生密度抑制のため、7月中旬までに畦畔や水田周辺の雑草地などの草刈りを地域ぐるみで確実に行う。

イ いもち病

補植用苗を畦畔や水田内に放置していると葉いもちの発生源となるので、速やかに処分する。

葉いもちは7月上旬頃から見られることが多く、発生状況に十分注意し、病斑が見つかり次第、防除を徹底し、例年葉いもちが発生する水田では、予防剤による防除を基本とする。

葉いもちの発生が見られた場合は、4～5日ごとに成分の異なる茎葉散布剤で追加防除を行い、上位葉の発病を抑えるよう努める。

ウ イネドロオイムシ

食害が多くなると稲の生育が遅れるので、多発水田では、茎葉散布剤や水面施用剤で早めに防除する。

③ 雑草防除

雑草が残っている場合は、その種類を確認し効果のある除草剤を散布する。また、剤によって散布条件、方法が異なるので、使用方法を事前に確認する。

3 大豆

(1) 生育状況

管内のは種作業は6月8日に最盛期となり、25日に終了した。出芽は概ね良好で、生育は順調である。

(2) これからの農作業と管理

① 中耕・培土

雑草防除や作土の通気性改善等のため、中耕・培土を行う。

1回目は、本葉2～3葉期（は種後30日頃）に初生葉のつけ根まで軽く土寄せし、2回目は、本葉5～6葉期（1回目培土の2週間後頃）に第1本葉のつけ根まで土寄せする。

② 追肥

生育量に応じて、追肥を行う。開花期から窒素吸収量が増加するため、開花期直前（7月25日頃）に窒素成分で5～8kg/10a施用する。

③ 除草

雑草は、生育期処理除草剤や中耕等で体系的に防除し、これで抑えきれない場合は、非選択性除草剤の畦間処理や株間処理を検討する。

4 小 麦

(1) 生育状況

平年に比べ、稈長、穂長ともに長く、m²当たり穂数はかなり多い。

以下のほ場では6月30日から成熟期に達し、管内の収穫始めは例年並の6月30日となっている。

管内の小麦の生育状況

調査場所	年次	幼穂形成期	出穂期	開花期	成熟期※2	成熟期(6月10日)		
						稈長	穂長	穂数
弘前市 船水	本年 前年比 前年	3/18	5/13	5/25	6/30	102.5	10.1	718
		早25日 4/13	早4日 5/17	遅1日 5/24	(遅4日) 6/26	(128%) 79.7	(110%) 9.2	(179%) 402
黒石市 追子野木	本年 平年比 平年※1	3/20	5/12	5/24	6/30	91.5	9.0	392
		早27日 4/17	早8日 5/20	早6日 5/30	(早5日) 7/5	(115%) 79.9	(111%) 8.1	(106%) 370
黒石市 浅瀬石	本年 平年比 平年※1	3/19	5/13	5/25	7/1	84.9	9.2	437
		早31日 4/20	早8日 5/21	早5日 5/30	(早4日) 7/5	(111%) 76.5	(118%) 7.8	(140%) 305

※1 過去8か年の平均 ※2 成熟期は、出穂後積算温度840℃(子実水分30%)で予測

(2) これからの農作業と管理

部分的倒伏がやや多く、穂発芽での品質低下が懸念されるため、倒伏した小麦は仕分け刈りを行う。

5 りんご

(1) 生育状況(7月1日現在)

ふじの肥大(横径)は、県生育観測ほの弘前市独狐では4.1cmで平年比105%、平川市金屋が3.8cmで同97%、藤崎町藤崎が3.9cmで102%となっている。

管内のりんごの果実肥大状況

(単位: cm)

地点名	品種名	年	6月1日	6月11日	6月21日	7月1日
弘前市 独狐	ふじ	本年	1.4	2.6	3.4	4.1
		平年 平年比	1.3 108%	2.3 113%	3.2 106%	3.9 105%
	つがる	本年	2.0	3.3	4.1	5.2
		平年 平年比	1.7 118%	2.8 118%	3.8 108%	4.7 111%
ジョナゴールド	本年	2.0	3.2	4.1	5.0	
	平年 平年比	1.7 118%	2.8 114%	3.7 111%	4.6 109%	
王林	本年	1.8	2.8	3.5	4.3	
	平年 平年比	1.8 100%	2.7 104%	3.6 97%	4.3 100%	

(続き)

地点名	品種名	年	6月1日	6月11日	6月21日	7月1日
平川市 金屋	ふじ	本年	1.3	2.4	3.1	3.8
		平年	1.4	2.3	3.2	3.9
		平年比	93%	104%	97%	97%
藤崎町 藤崎	ふじ	本年	1.4	2.5	3.4	4.2
		平年	1.4	2.3	3.2	4.0
		平年比	100%	109%	106%	105%
	つがる	本年	1.8	2.8	3.7	4.6
		平年	1.6	2.6	3.7	4.5
		平年比	113%	108%	100%	102%

(2) これからの農作業と管理

① 仕上げ摘果

作業を急ぎ、終わったところでは見直し摘果を行い、適正着果に努める。

② 袋かけ

7月10日頃までに終える。

すす斑・すす点病を防ぐため、袋かけ前の薬剤散布は果実にも十分付着するよう丁寧に行い、発生が多い園地では散布後5日以内を目安に袋をかける。

③ 薬剤散布

7月からの薬剤散布は15日以内の間隔を厳守し、散布量も基準を守り丁寧に行う。散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒しによる降雨前散布を徹底する。

④ 黒星病対策

本年は黒星病の発生が少ないが、被害葉や被害果は見つけ次第、摘み取って適切に処分する。

⑤ 腐らん病処理

腐らん病の切除や治療が終わっていない園地では、速やかに処置を行う。

⑥ ハダニ類

一部園地でハダニ類が発生しており、1頭でも見られた場合は、殺ダニ剤を散布する。また、種類を見極め、効果がある剤を選択する。

6 も も

川中島白桃の果実肥大 (単位:cm)

(1) 生育状況

川中島白桃の果実生育は順調である。

調査地点	年	7月1日
平川市 新館	本年	4.5
	平年	4.2
	平年比	107%
黒石市 石名坂	本年	4.4
	前年	3.9
	前年比	113%

※ 平年は、H19年～R1の13か年平均

(2) これからの農作業と管理

① せん孔細菌病対策

発生が多い園地では、果実感染を防ぐため有袋栽培とする。また、病斑がある枝は見つけ次第、適正に処置する。

② 摘果

仕上げ摘果が終了した園地では、中旬頃から見直し摘果を行う。

7 ぶどう

<スチューベン>

(1) 生育状況

発芽日、展葉日とも平年より2日遅かったが、開花日、満開日は平年より早まった。

スチューベンの生育状況 (単位：月/日)

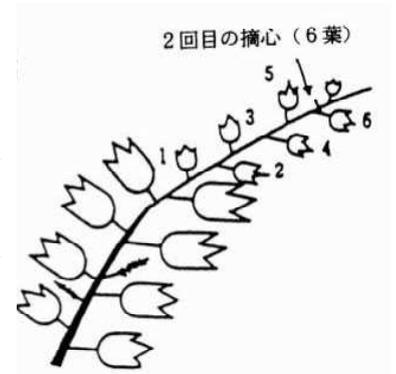
調査地点	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
弘前市 石川	本年	5/1	5/9	6/15	6/16	6/30
	平年	4/29	5/7	6/17	6/19	6/26
	前年	4/28	5/8	6/8	6/10	6/21
	平年比	2日遅	2日遅	2日早	3日早	4日遅

(2) これからの農作業と管理

① 1回目の摘心

採光の確保と養分の浪費を防ぐため、副梢の展葉枚数が8～9枚になった頃、1回目の摘心後に伸びた副梢の葉を5～6枚残して切る。これ以降に伸びる副々梢等は、3～5葉で摘心する。

8月上旬の着色前（水が回り、果粒が軟化する頃）までに、20以上の葉枚数を確保する。



② 摘房

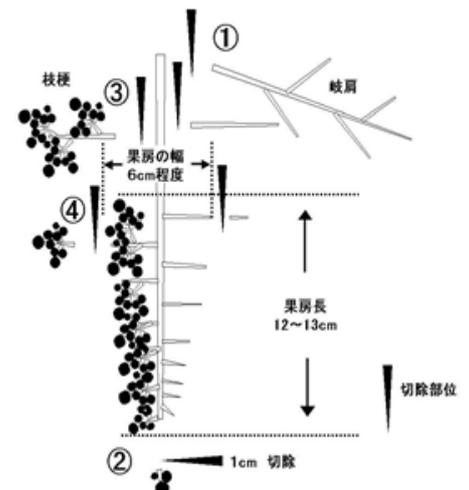
伸びが悪い結果枝の房はできるだけ早めに切り取り、また、結果枝の伸びによっては、2房を1房にする。

③ 果房の整形

果粒が小豆粒大の頃（満開後15～25日頃、例年は7月上旬）、果房の先端を1cm切除し、果房長が12～13cmになるよう果房上部の枝梗を除去する（図の②③）。

残した果房は上部の幅が6cm程度になるよう、枝梗を切りつめる（図の④）。

収穫時の果房は、果房重 300g程度、果房長 15～16cm（幅8～9cm）、果粒数 70～80粒程度を目標とする。



〈シャインマスカット〉

(3) 生育状況

発芽日は平年より2日早く、展葉日は3日遅く、落花日は平年より2日早かった。

シャインマスカットの生育状況 (単位：月/日)

調査地点	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
弘前市 真土	本年	5/4	5/13	6/23	6/24	6/28
	平年	5/2	5/10	6/22	6/25	6/30
	前年	—	5/14	6/18	6/21	6/24
	平年比	2日早	3日遅	1日遅	3日早	2日早

(4) これからの農作業と管理

① 2回目の摘心

副梢の展葉8～9枚の頃、1回目の摘心後に伸びた副梢の葉を5～6枚残し切る。

② 果房長の調整

果房長が長すぎる場合、上部の支梗を2～3本除去し、14～15本程度とする。

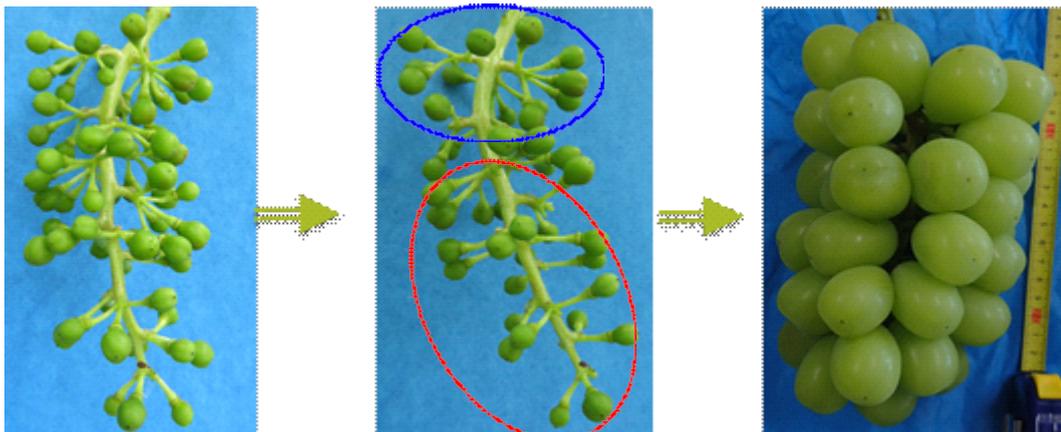
③ 予備摘粒

2回目の無核化处理後、肥大が確認され始めたら、明らかな小粒果や内向き、上向きの果粒を摘粒する。

④ 仕上げ摘粒

1果房当たり42粒程度を基本とし、果粒が小豆大となる満開後15～25日頃から、大豆粒頃までに終える。

小粒果やさび果などの障害果のほか、果粒が外向きに並ぶよう内側の果粒を除く。



60粒

41粒

収穫時

※ 上部（青丸）は4～5粒、下部（赤丸）は2～3粒にする。

⑤ 袋かけ

かすり症軽減のため、7月下旬から8月上旬頃に袋かけを行う。

8 にんにく

(1) 生育状況（6月10日現在）

生育観測ほの生育は、草丈、生葉数、茎径、球径はほぼ平並み、球重はやや平年を上回った。

管内の収穫は、例年並の6月24日から始まった。

(2) これからの農作業

① 収穫

ほ場の平均的なところを試し掘りし、球の盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平になった時期に収穫する。土壌病害や茎葉の病害が目立つ場合は、優先して収穫する。

② 乾燥

茎の長さは、「シート乾燥」では7cm程度、「棚・コンテナ乾燥」では10cm程度に調整する。

にんにくの詰め込み方は、「シート乾燥」ではコンテナ満杯、「棚乾燥」は袋容量の6～7割、「コンテナ乾燥」はコンテナ容量の8割程度とする。

割れ玉はチューリップサビダニ、アザミウマ対策のため、別コンテナに分ける。

こまめな水分補給で、熱中症に注意しましょう！！

9 トマト・ミニトマト

(1) 生育状況

出荷は、大玉トマトでは例年より3～4日遅い6月24日、ミニトマトは4日遅い6月10日から始まっている。

チャック果や窓あき果が多く、現在もカリ不足やカルシウム不足のほ場が見られる。

(2) これからの農作業と管理

① 定植後の管理

ハウス内の温度は昼間25℃前後、夜間は14℃を目安に管理する。

高温障害発生防止のため日中はサイド換気や肩換気を行うが、気温が低い日はサイドを閉め、保温に努める。

夜間でも、最低気温が14℃以上であればサイドを解放する。

② 着果の促進

トマトトーン処理は、なるべく気温の低い午前中に行い、気温20℃以上では100倍で、1花房当たり1～1.5cc噴霧する。

1～4段花房は4番花開花始め、5段花房以降は3～4番花開花始めに行い、散布は1花房1回とする。

③ かん水と追肥

試しかん水は、早植えでは、2段花房のトマトトン処理後、1株当たり10程度を、6月定植では、土壌の乾湿程度を確認し、1段果房着果後、早目に行う。

本格的なかん水と追肥は3段花房のトマトトン処理終了後から行うが、活着が遅れたり草勢が衰えているほ場では処理前に行う。

1回当たりの追肥量は、3日に1回の場合は窒素成分0.5kg/10a以内、2日に1回の場合は0.3kg/10a以内とする。

④ 摘果

大玉トマトは、500円玉程度の大きさで摘果作業を行い、樹勢に合わせて着花数を制限する。ただし、草勢が極端に弱い場合は、トマトトン花房処理の後、着果を1～2果程度とする。

ミニトマトの摘果は、落花対策として樹勢にあわせて行う。また、落花が見られたら、葉面散布を実施する。(例：トミー液肥グリーン1,000倍など)

⑤ 病虫害防除

灰色かび病が発生しやすい時期なので、葉先枯れ(カリ欠乏症+水分不足)の予防や花カスを取り除くとともに、ハウス内の換気と薬剤による予防防除に努める。

ハウス内へのアザミウマ侵入時期(6月下旬から)であり、ほ場周囲に薬剤による防除を行った後、周辺のクローバー等を除草する。

10 トルコギキョウ(品種：ボヤージュピンク2型、定植日：4月22日)

(1) 生育状況

6月10日現在の生育状況は、草丈15.5cm、節数8.8節で、生育は順調である。一部ほ場でヨトウムシ類の被害が見られるものの、病害の発生は見られない。

(2) これからの管理

ハウス内が高温・過湿にならないよう、換気や寒冷紗の活用で適切に管理する。

高温・乾燥が予想される場合は適宜かん水を行い、発らい後はしおれない程度にかん水を減らし、軟弱徒長を防ぐ。

不要な側枝の摘み取りと一番花は早めに除去する。

収穫は涼しい時間帯に行い、速やかに鮮度保持剤による前処理を行う。

「GAP」でより良い農業経営を！！

ストップ！！農作業事故